

私と“ワークライフバランス”

山田 七子

鳥取大学医学部附属病院卒後臨床研修センター センター長 教授／同上 皮膚科

私と“ワークライフバランス”という言葉との関わりは、2012年4月に所属する大学の皮膚科学教室から同附属病院のワークライフバランス支援センターの副センター長准教授という職位に移ったときに始まりました。この部署は、多様な人材の育成、1人1人が能力を発揮して活力と持続性に富む組織をつくることを目指し、2010年に設立されました。ここでは病児保育体制の整備や女性医師のキャリア継続支援推進に関わりました。その後、2013年8月には卒後臨床研修センターに異動しましたが、2023年4月からは卒後臨床研修センター長とワークライフバランス支援センター長を兼務することとなり、現在再び病院のワークライフバランス支援、ダイバーシティ推進に関わっています。

大学病院内で皮膚科以外の業務を任されるようになって10年が経過し、その責任も重くなっていますが、皮膚科以外にも失敗や成功を分かち合える心強い仲間が増えました。そして何より、皮膚科診療・教育・研究という皮膚科医としてのキャリアも維持したいという私自身の思いがあり、さまざまな方に助けていただきながら、続けていられることに感謝しています。

私たちが所属する組織やチームには、年齢も背景も、抱える問題もさまざまな仲間がいます。お互いの体調や生活を思いやりながら、よりよい仕事ができることを目指して助け合うことは、チームとしてのよい成果を生み出すと信じています。よい成果を生み出した経験の1つ1つはまた、各人が仕事を長く続けながら、よい生活・人生を送るための原動力にもなるのではないかと思います。

“ワークライフバランス”は、個人で自分自身のために考え守るものであると同時に、組織やチームの中دةともに考えることで、自分1人では行くことのできない到達点や新しい発見に出会わせてくれるものでもあるように思います。

キャリアを考えるうえでもう1つ若い先生方にお伝えしたいのは、“キャリア”は、現実仕事をして十分な経験を重ねて初めて、自分が何に向いているのか、何をしたいのかがわ



かってくるという側面をもつことです¹⁾。つまり、“やってみなければわからない”のです。進路を変えなかったからこそ成し遂げられたこと、変えたから経験できたこと、いろいろあると思います。自分のキャリアに待ち受けているものを楽しみにさまざまなことにチャレンジし、皮膚科医を続けていただきたいと思います。

〈文 献〉

- 1) エドガー・H. シャイン（金井壽宏訳）：キャリア・アンカー ―自分のほんとうの価値を発見しよう 白桃書房、東京、2003